



発行所
岡山県立笠岡高等学校
同窓会
岡山県笠岡市笠岡3073の2
事務局
☎ 0865(62)5128
印刷
㈱ 正文社印刷所

創立111年を迎え決意を新たに

同窓会会長 古山 泰生



笠岡高校同窓会の皆様には、日頃から伝統ある母校の発展のため格別の御支援を賜っており、厚く御礼申し上げます。

「国家百年の計は教育にあり」と言いますが、日本の再生の鍵は、教育の回生にあると言っても過言ではありません。

私は、その鍵を備中松山藩の改革で勇名を馳せた山田方谷が握っていると確信しています。

方谷は、空前絶後の改革をわずか七年間で成し遂げたことが、よく知られておりますが、それが全てではなく、その後、明治政府の大臣就任要請等を固辞し、何の対価も求めず一農民へと生活を戻し、何のてらいもなく生涯を過ごした生き様こそが、方谷の魅力だと思います。

現在、こうした方谷の生き様を大河ドラマに言う機運が、僅か三ヶ月で四十万人以上の署名が寄せられるなど大変盛り上がりつつありますが、方谷が活躍した時代の岡山の教育は、誰が

見ても刮目すべきものがあります。笠岡でも、国学者小寺清先が初代教授となつた敬業館(二七九八年開校)に長門や豊後からも入門が相次ぐなど、先駆的な素晴らしい教育が実践されていたのです。

私は今こそ、教育県岡山の素晴らしい伝統や、方谷の「事の外に立つて事の内に屈せず」という目的のことにとらわれず信や義を大切に、目指すべき大局的なビジョンに立脚した理念を掘り起こし、危機的状況にある本県教育の回生に繋げていくべきだと痛感しております。

方谷は晩年、庶民層々に教育を行き渡らせることを願って、当時の閑谷学校の再興を果たしたのは、御承知のとおりです。

歴史は繰り返すと言われるように、閑谷学校では、国際物理オリンピックの予選である「物理チャレンジ」が定期的に開催されており、こうしたイベントを通して、受験勉強では得られない科学する心を養い、視野を広げ、本校からもノーベル賞を目指す科学者や産業の未来を担う才能ある若者が誕生することを願ってやみま

せん。

本校は、平成十一年の中学区制への移行により、笠岡地域のみならず井原、矢掛地域も含めた県西部に雄校として幅広い人材を育成されるとともに、同窓会の幅も広がっており、大変喜ばしいことと感じております。

同窓会の広がり証左として創立百周年には県内屈指の同窓会館の建設が行われ、多くの同窓生の皆様から寄贈された美術品、書画等々は、本校のみならず、本県の貴重な財産であり、平成二十二年の国民文化祭の開催をはじめ地域文化の牽引役として大きな役割を果たしたことは、他の高校にはない本校の誇りであり

ます。

私は、こうした笠岡高校の伝統や同窓会の輪を大切にしながら、教育の回生や文化の振興に全力を傾注する所存でありますので、どうか同窓会の皆様には、母校の発展はもとより、同窓会を中心とした二十一世紀を担う人材づくりに、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。また、御挨拶とさせていただきます。

「あいさつ」

学校長 松下 晶子



111年目の千鳥

千鳥会の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。昨年度は、笠岡高校創立百十周年にあたり、例年にもまして力強いご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

お陰をもちまして、昨年十月五日に、千鳥創立百十周年記念式典を、県内から百三十余名の来賓をお迎えして、盛大かつ厳粛に行うことができました。千鳥が今ここにこうしてあるのは、その設立に奔走された長野長さんを筆頭に、たくさんの方々の並々ならぬご労苦や深い愛情があったからだと、初めて知った生徒たちがほとんどでした。自分たちがその礎をしっかりと引き継ぎ、後輩たちに繋がなければならぬと改めて自覚したことと思います。百十周年の記念の席に居合わせたことを幸運と感じた生徒も多くおりました。今年度の学年目標や、千鳥祭のテーマにも、「くく自然に『チドリプライド』という言葉が盛り込まれており、新たな十年がスタートしたことを感じさせます。二〇一三年、一一一年目のキーワードを『主体的な学び』としました。そのた

東京支部総会報告

昭和五十八年卒 浅野 勝也

五月晴れとなった五月二十五日に、千鳥会東京支部総会が、来賓に古山会長以下本部の方々、松下校長、近畿支部の岡原様、招待恩師として武部・中原両先生をお迎えし、会員を合わせ総勢八十九名が集い、スカイツリーの間近かで、下町の情景を眼下に臨む浅草のレストランアラスカで開催されました。

恒例の第一部に引き続き始まった第二部で、何十年ぶりの再会を喜びながら大いに歓談がはずむ中、場の雰囲気は適度に和んだ所で最大の見せ場であるサンパシヨが情熱的な調べと共に華麗に始まりました。

会場全体に大きな歓声が響き亘り、しばしの間、会場全体が南米カーニバルの真つ只中にワープしたような雰囲気になりました。ダンスシヨの後、興奮さめやらぬままダンサーの方をプレゼンターに、スカイツリーと浅草に因んだ人気商品が当たる抽選会を実施

当選番号が発表される毎に歓声とため息が交錯する大変な盛り上がりは、一等の景品、スカイツリー展望台入場券の当選者発表で、最高潮に達しました。

最後は屋外でスカイツリーをバックに集合写真を撮影。その後、久しぶりに再会した同級生や先輩後輩と肩や腕を組んだ写真を思い思いに撮る方が後を絶たず、名残りが尽きぬ中、来年の更なる盛り上がりを確認しつつ散会いたしました。

近畿支部総会報告

昭和四十六年卒 武富 安子

「近畿支部総会を終えて」平成二十四年九月三十日は、おもしろも台風の接近となりましたが、松下晶子校長先生をはじめ、同窓会事務局 黒川竜生先生、同窓会会長 古山泰生様、東京支部より下川雅敏様をお迎えすることができました。

今回は、四十六年度卒業生がお世話をさせていたいただきました。メンバーが少なく不安だらけの中、役を引き受けましたが、近畿支部長の陶山英志様を中心とし

て、先輩の役員の方々細かいところまでアドバイスをしてくださり、何とかやることができました。

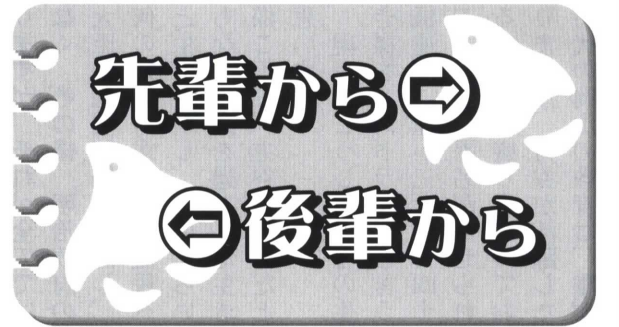
松下校長先生からは、先生ご自身がまとめてくださった「千鳥の取組」のリーフレットをもとに、今の高校の近況報告をしていただいたり、各期の代表の方にインタビュー形式で、高校時代の思い出話をお聞きしたりして、会場の弥生会館は台風などものともせず、皆、高校時代にタイムスリップしたかのように懐かしい話に花が咲きました。

近畿支部には、たくさん同窓生の方々がいらつしやいますが、ご都合がつかず参加者が限られていたことが残念でした。という私も今までは仕事に追われ、参加できませんでした。今回は役もあり、参加させていただきましたが、参加すると懐かしさ、学年は違っても笠岡高校卒業生というだけで親近感を持つことができました一日でした。

今後益々の近畿支部並びに本部同窓会が発展しますことをお祈りいたしております。



岡山県立笠岡高等学校東京支部同窓会



卒業後に感じる 同窓生の絆

昭和四十五年卒 大島 俊明

我々が在籍した一九六七年四月から一九七〇年三月は、政治、文化共に激動の時代でした。特にアポロ11号の人類初の月面着陸。東大紛争による東大入試中止。大阪万博の開催など、当時の学生は自分の生きる方向性や社会との関わりを本当にまじめに真剣に考えていました。音楽的にはグループ・サウンズやウエストコースト・ロックと呼ばれる音楽が生まれ、当時はまだ米国だった沖縄から放送されていたボイス・オブ・アメリカや深夜放送で流される音楽の話題で友人達と盛り上がりがあったものでした。スポーツにおいても、メキシコシテイオリンピックで、日本サッカーチームがアジア勢初となる銅メダルを獲得し日本にサッカーブームを起こしました。

が、時は流れ、一昨年の正月に急遽決めた還暦同窓会には、六十二名の同窓生が集い、クラスの枠を越えて楽しい時間を過ごすことができました。またそこから在籍時代には交友のなかつた新たな付き合いも生まれ、今はまじめで努力家の多い千鳥同窓会を誇りに思うとともに、同窓生の絆の強さを再認識しています。

最後に、これからも、母校「笠岡高校」が多くの優秀な若者を育てて行くことを卒業生の一人として熱い思いで見守りたいと思っております。

校は在って当たり前、何の感慨もなく、ただ漠然と母校を見つめ、接してきたように思う。これまでに、母校のために尽くしてくださった先生方、諸先輩方への感謝の気持ちを、いつまでも持ち続けたいと思う。真摯な気持ちで、母校と向き合うよい契機となった百十周年。次は百二十周年か。その時には、今よりももう少しはましな卒業生でありたいと思う。叶うならば、孫の高校入学式を、母校で一緒に祝いたいとも思う。(少し欲ばりかな。)

で盛り上がったいたら、その息子さんが目の前に座っていたことなど、OB会での思い出が既に自分の中で懐かしいものとなってきています。高校卒業後、初めて参加した時はまだ年配の方と酒を飲むことに慣れず、緊張しながらの参加でしたが、自分がおじさんの歳になると年一回旧知の顔を見ることができるようになる。次は百二十周年か。その時には、今よりももう少しはましな卒業生でありたいと思う。叶うならば、孫の高校入学式を、母校で一緒に祝いたいとも思う。(少し欲ばりかな。)

もので、本当に「ひと昔」という感覚を感じるのに、十年という時間は、長すぎず短すぎず、ちょうどよい。そんな「ひと昔」を実感するため、我々二〇〇三年卒業生は卒業後初めての学年全体での同窓会を開いた。私を含め多くの人が岡山を離れ遠方に住んでおり、帰省のタイミングが限られることを考慮して、元旦という家族思いでない日程で開催したにも関わらず、当時の担任の先生方を含め多くの懐かしい顔ぶれに出会うことができました。

皆それぞれの道で自分の人生を歩んでいた。結婚し、子供を持つ同級生もいて、心なしか、流石に少し面持ちも変わったように見えた。しかし、人間がすっかり変わってしまったものには、十年という時間はどうやら短すぎるようだ。当時と変わらないルックスとキャラを持ち合わせた懐かしい仲間達がそこにいた。

すっかり人間が変わる程に成長したものだ、変わっていないものだが、仲間間にとっては安心感と懐かしさを覚え、心地よさを感じるのかもしれない。

千鳥で出会ったみんなや育まれた絆が、私の高校生生活を一生の思い出にしてくれました。そしてきつと、私の知らないところで誰かが支えてくれていたことと思います。みんなの支えがなければ、私が今年笑顔で千鳥を卒業することは有り得なかつたでしょう。

千鳥の百十周年に思うこと

昭和五十五年卒 長野 浩一

昨年、実家の両親の元を訪ねた時のことだった。母が母校の記念アルバムを懐かしそうに眺めていたが、母校は閉校になるといふ。少子化の波に抗しきれず、そうした憂き目に会ったようだ。母の寂しそうな姿が印象的だった。

時を同じくして笠岡高校は、昨年、創立百十周年を迎えた。自分が卒業して三十数年が経つが、当時も今も変わりなく、千鳥が丘に母校は健在である。ちなみに、自分の娘二人も在校生としてお世話になっており、恵まれた環境の中、青春真っ只中を満喫しているようである。

今回、関係者の方々のご尽力により、大変立派な同窓会名簿を作成していただいた。これを見て、改めて、母校の歴史と伝統の重さを感じしみと感した。今も身近な存在であるが故に、母

卒業して二十年も経ちますが、母校の事を思い出す機会が年一回あります。毎年正月にある剣道部のOB会です。

このOB会はかれこれ四十年くらい続いているらしく、幅広い年代のOBがいます。厳しかった(怖かった?)先生がOBであったり、恩師の思い出悪口?

卒業して二十年も経ちますが、母校の事を思い出す機会が年一回あります。毎年正月にある剣道部のOB会です。

剣道を通じて

平成五年卒 西山 尚伸

卒業して二十年も経ちますが、母校の事を思い出す機会が年一回あります。毎年正月にある剣道部のOB会です。

卒業して二十年も経ちますが、母校の事を思い出す機会が年一回あります。毎年正月にある剣道部のOB会です。

大切なもの 平成二十五年卒 碓本 彩加

「あたたかい 人の優しさに 僕は答えられているのだろうか」

高校生活最後の千鳥祭。クラスのみんなで歌った曲の歌詞に、そんな言葉がありました。友人、先生、家族。千鳥で送った生活を振り返れば、いつもその人たちに支えられていた思い出ばかりが蘇ります。

- 部活動報告 H24年度
バレーボール(女子)
県総体ベスト16
サッカー
県総体ベスト16
山岳部
県総体男子団体3位
第52回中国高校登山大会
団体男子7位
中国大会出場決定
秋季登山大会
団体女子3位
縦走女子第6位 中尾
バドミントン(女子)
県総体学校対抗戦ベスト16
県秋季大会学校対抗戦
ベスト16
陸上競技部
県総体
男子400mH 第4位
男子円盤投げ 第2位
土屋壮太郎
以上2名

- 中国大会出場決定
第65回中国高校陸上
男子400mH 大内
準決勝進出
男子円盤投げ 土屋10位
書道部
全国総合文化祭
書道の部奨励賞 佐藤麻有
美術部
高校生美術コンクール
【ポスターの部】
金賞 黒田 若菜
【風景画の部】
金賞 三宅 裕子
【静テッサンの部】
金賞 塩田 法子
【構想の部】
金賞 玄場美沙季
銀賞 大山 恵理
【静油絵の部】
銀賞 萩原愛美香
吹奏楽
第53回岡山県吹奏楽
高校小編成部門 銀賞